

令和5年度第2回中央区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

日 時：令和6年3月26日（火曜日）
午後2時00分～午後3時54分
場 所：中央保健福祉センターボランティア活動室
出席者：委 員 20名（欠席8名）
事務局 12名
傍聴人 0名

【1】次 第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 中央区長あいさつ
- 4 新委員紹介
- 5 議題
(1) 令和5年度の地域活動の取組状況について
(2) 福祉まるごとサポートセンターについて
- 6 その他
(1) 推進協だより第27号（案）について
(2) 令和6年度のスケジュール（案）について
- 7 閉 会

【2】議事要旨及び発言要旨

<開会>

- ・委員28名のうち、15名の出席を確認して開会した。
なお、きぼーるパーキングの混雑等により、開会後に5名の出席があった。
- ・委員長あいさつ及び区長あいさつ後、新委員の紹介を行った。
- ・事務局から会議の公開について説明があった。

<議題（1）令和5年度の地域活動の取組状況について>

社会福祉協議会地区部会の各委員から資料1について、今年度の活動実績を踏まえて来年度に実施する取組みや、地域活動再開にあたり苦慮したことや工夫したことを中心に、報告があった。

（都地区部会：栗田委員）

令和5年度は、すべての活動を再開することができた。いきいきサロン（体操教室、手芸教室）も順調に進んでいる。ふれあい食事サービスについては、会食からテイクアウト方式に変更した上で年5回実施。子育てサロンも当初は人がなかなか集まらなかったが、各町内自治会に設置してある掲示板を活用させていただき、子育てサロンの周知を図った結果、現在は20名ほどの参加につながっている。都小学校でのバザー活動（いちょうまつり）で、社協の地区活動や民生委員の周知活動を行っている。課題としては、担い手の不足で、活躍している方が高齢の方々が多くいる地域では退任を希望される方も出てきている。一自治会で継続している移動スーパーを拡充していきたいが、なかなか広がらない。

コロナ禍でこれまでの生活が一変したことにより、新たに見守りが必要な方が増えたことから、協力員の増員や体制の再構築をしたが、もう少し強化が必要と考えている。

(末広地区部会：社協区事務所 中川)

民生委員主体の活動についても町内自治会と地区部会が連携して実施している。避難所運営委員会のスタッフが9月に倉庫や備蓄品の確認などの訓練を行ったが、来年度は地域住民の方にも案内をして地域住民参加型の避難所開設訓練を実施したい。いきいきサロンや子育てサロンは月1回程度実施。世代間交流としては保育園と交流を図った。寒川小学校4年生を対象に、消防団の小屋の見学や放水体験を実施。防犯パトロールを月2回実施。こども110番のいえに地域住民が協力。

(末広地区部会：秋元委員) 【補足】

すべての活動を再開することができた。災害時要支援者をどう助けるかが課題であり、千葉市が今後30年以内に大地震が発生する確率も高いことから、令和6年度は災害時に支援を必要とする人の避難支援について、重点的に取組みをしたい。

(寒川地区部会：社協区事務所 中川)

地区部会の役員会で町内自治会や民生委員と情報共有しながら各種事業を実施している。前年度同様に、災害時要支援者名簿を更新。6つの町内自治会よりそれぞれ15名程度参加し、避難訓練を実施。合わせて、避難所運営委員会の運営マニュアル確認の訓練や打合せも実施。いきいきサロンを5会場で実施。各町内自治会で、グラウンドゴルフを実施。小学4年生の車椅子体験については、障がい者委員会が中心となり実施。子育てサロンについては担い手不足等により毎月の実施はできなかったものの、概ね実施ができた。ふれあい社協まつりは、規模を縮小して模擬店やグラウンドゴルフ・ボッチャ大会を開催。防災マップを作成し、活用している。敬老会に寒川小学校の有志が参加し、合唱や演奏する機会を設け、活動を通じて福祉の心を育んだ。

(寒川地区部会：草薙委員) 【補足】

コロナ前の参加者が2/3くらい戻ってきた。地区部会を運営する役員やボランティアのなり手不足があり、町内自治会に推薦をお願いしても上がってこない。いきいきサロンのボランティアはコロナ前の7割くらいに減少している。

(ちば中央地区部会：高橋委員)

少しずつ事業を再開しているが、従前のクオリティーまで戻すことはできないため、参加者が少しずつ減っている。新しく子どもカフェをスタート。(従来開催できなかった)東本町自治会館でいきいきサロンをスタート。小学生から高齢者まで幅広い年代を対象としたボッチャを楽しむ会を実施。引っ越してきた方がボッチャ大会に参加することにより、地域とつながり、溶け込むことができた話も聞いており、今後も続けたい取組み。

今後の課題として思っているのは、財源が心配になっていること(会費をどうやって集めに行くか)。町内自治会と連携しているが、世帯数と町内自治会の加入世帯数との乖離が大きく、全員が会費を納めないといけないというわけではないので、徐々に財源が減っている。令和6年度は地区連協と連携しながら、少しずつ改善していきたいと思っている。

(中央東地区部会：金井委員)

すべての活動を再開することができた。コロナ禍の3年間で高齢者の生活も大きく変わった。高齢者の認知症にかかる対応等について、民生委員、高齢障害支援課、あんしんケアセンターと協議。また、地域で認知症カフェの立ち上げを検討しているグループのサ

ポートについても協議した。令和6年度は地域の認知症に対する理解を深めるため積極的に研修会を開催するとともに、認知症カフェなど、認知症にかかる取組みを行っている施設の見学や調査等を実施したい。

平成27年7月から見守り活動を実施しているが、見守り希望者が6割に減少し、協力員も4割に減少しているため、令和6年度は現在の地域住民のニーズを把握するためのアンケート調査等を実施したい。

いきいきサロン、ふれあい散歩、シニアのための健康体操については、令和6年度に参加者の意見を取り入れるなど、内容の充実を図り、参加者の増員を図っていききたい。

(東千葉地区部会：村井委員)

すべての活動を再開することができた。今年度から千葉大学看護学科が地域連携実習の受入れを始めた。3日間、学生が地域の中のいろいろな活動に参加しながら、今の地域のニーズやそれに対して自分たちがどんなことができるのかを考える実習を2回実施した。それぞれ13人と12人の学生が地域のいろいろな集まりに出ながら、「この地域に住んでどうですか、何か不安に思っていることはありませんか」などを聞き、その集大成として、3月9日に「これからを考えてみよう～コミュニケーション豊かなまちを目指して」という「東千葉住民のつどい」を開催した。地域活動に参加している高齢者3人と新規に住むようになった若い世代3人が今の東千葉（地区）をどう思うか、そこに期待するのは何なのか、を率直に話してもらった。参加者の感想の中に、「最初に入居した第1世代の方が行ってきた様々な活動や日頃の横同士のつながり、活動方針が、新しく入居した第2世代の今の生活や地域との活動につながっていると感じ、世代間のギャップや第2世代の今の状況を語られており、これからそのような思いなどを語らえる場ができるといいなあ」というものがあった。令和6年度はいろいろなグループやいろいろな思いの人たちが気軽に集えて、この地域でどんな暮らしをしたいのかを語らえる場所をたくさん作っていききたい。

(西千葉地区部会：岩本委員)

すべての活動を再開することができた。30年にわたる高齢者給食宅配事業はボランティアの高齢化により中止。各事業については感染症に配慮しながら健康体操教室、太巻き寿司講習会、春の福祉ふれあいミニバザーを実施。育児サークル見守り事業では、よい子の広場等、少数でも中止せず継続して実施できたことは大切と常に感じている。地域での福祉教育の推進については、小学校での部活動で夏休みのお泊り会等に参加。また、地域の皆さんとのポッチャ大会などで交流し楽しんでいる。12月3日に初めての活動として地域の居場所となる、ふれあい・いきいきサロン活動を開始。地域の皆さんの話し合う場、語り合う場、学び合う場として交流・仲間づくりの場を目指している。

令和6年度は穏やかに安心して暮らせるお手伝いを無理せず楽しみながら活動していききたい。

(中央地区部会：河田委員)

社協まつりは、実行委員会（地区部会、PTA、子供会、各町内自治会）のもと地域全体の協力により盛大にできた。学校との連携が難しくなっている。PTAが孤立化しており、単P化している学校が多い。担い手の高齢化も課題。

大きな地震も増えていることから、避難所の開設もしっかりやらないといけない。

(新宿地区部会：社協区事務所 中川)

民生委員があんしんケアセンターと連携しながら見守りを行っている。今年度はこれに加えて、地区部会であんしんカードを作成しており、令和6年度より75歳以上の方へ順次配付できるよう準備を進めている。地区部会では0歳児の親子育児サークル「ぷち・あんじゅ」を年4回、また、母親を対象とした子育てサークル「学びと気づきの教室『mama'sの会』」を月1回開催し、子育て中の母親同士のつどいの場を提供。地区部会でいきいきサロン、高齢者の健康増進を図る、「歩こう会」を再開。町内自治会では地域交番や消防団の方と連携し、月2回防犯パトロールを実施。避難所運営委員会が避難所に避難してきた方々に対してスムーズな受入れができるよう、住民参加による避難訓練や防災訓練を実施するとともに、町内自治会に対して必要な情報提供を行った。

令和6年度も今年度同様に関係団体と協力しながら事業を実施していく予定です。なお、あんしんケアセンター中央が同じエリアで「気軽に歩こう会」を実施しており、参加者が重複していることから、地区部会のふれあい・いきいきサロンを隔月で実施し、地区部会で開催している歩こう会はあんしんケアセンター中央で開催している気軽に歩こう会に参加協力をする予定。

(千葉みなと地区部会：石原委員)

昨年、社協地区部会としてどんな活動をするのがよいのか、意見を集めた。小中学校の校長先生にも協力いただき、意見をいただいたところ、児童生徒の登下校の交通安全の確保という意見がかなり多かったため、調査をしたところ、5か所ほどセーフティーウォッチャーが誰もいないところや週1・2回くらいしか対応していないところがあることがわかり、児童生徒の住むマンションから学校までのルートについて、セーフティーウォッチャーをマンションごとに募集。高齢者のお助け部隊のボランティアについても再募集。

(蘇我地区部会：宍倉委員)

従来どおりの活動を再開することができた。いきいきサロンの参加者数を増やすため、高齢者が多く開催場所まで不便な区域を重点区と設定し、あんしんケアセンターと連携して、体力測定のほか高齢者相談窓口コーナーを設け、サロン活動やあんしんケアセンターのPRを実施した結果、参加者の増加が認められた。

(白旗台地区部会：土屋委員)

コミュニティづくり懇談会（地域運営委員会）で、行政やあんしんケアセンター等と連携しながら、いろいろなテーマでの研修会を実施。支え合い活動（絆隊）を設けて、社協にコーディネーターをお願いしている。コロナ禍で協力者の顔合わせや研修などが進んでいないことから、来年度は進めていきたい。ふれあい子育てサロンは週1回開催しているが、こどもが多く増えてきた地区があり、保健福祉センターから依頼があったことから、その地域に出張し、年2回追加で実施する予定。いきいきサロンも年10回、保健福祉センター、あんしんケアセンターと協力して実施。ふれあいひろばも再開したが、コロナの影響もあり、屋外で内容を変更しながら実施。防犯パトロールについてはほぼ例年どおり実施し、さりげない見守り活動としても長く続けている。ほぼ全部の地域で避難訓練を実施。いろいろな団体と協力しながら事業を実施しており、30年以上続けていた食事サービスについてはコロナ禍で調理室が使えなくなり、淑徳大学と連携し、その食堂で作って、民生委員が配達するといった活動につなげて続けている。令和6年度としては新たに相談体制と情報提供の充実をさらに重点課題に追加して実施する予定であり、民生委員や町内自治会役員と連携して、あんしんケアセンターや福祉まるごとサポートセンターと情報共有し

ながら実施していきたい。

(生浜地区部会：社協区事務所 中川)

生浜地区地域運営委員会の中で、各団体が連携して地域活動を実施している。民生委員が中心となり、見守り活動を実施。自然災害発生時の合同防災訓練を実施。防犯パトロールやセーフティーウォッチャー活動を通じて、子どもたちが地域で安全に過ごすような環境づくりを行っている。新型コロナウイルスの影響を受ける前と比べて、いきいきサロンを1か所、いきいき健康体操教室を2か所増やすことができた。子育てサロンは予定どおり実施。体育祭についても再開。

令和6年度も今年度同様に地域運営委員会を中心に実施し、いきいきサロンの参加者数の伸び悩みや地域活動を行うにあたっての人手不足などの課題の解決を図るために検討をする予定。

(松波地区部会：小野寺委員)

いきいきサロンは、脳トレ会を月2回、ウクレレ会を月2回、グラウンドゴルフを週2回、卓球会を週1回実施。散歩クラブ歩こう会は月1回、子育てサロンは月2回実施。松波会館（松波町会）を地域の拠点として活動中。多世代交流の場として、ボッチャを実施し、幼児から高齢者まで30名程度の方が参加。松波町会と連携して、松波夏祭りでお店したり、敬老会開催や町内餅つき大会の手伝いをしたりすることで、子どもから高齢者まで全世代が深くかかわり活動する機会を提供している。今後の課題は見守り隊とお助けマンクラブについて、十分に機能していないところがあるので、松波町会と社会福祉協議会と連携して検討していく。

今年度の大きな事業として、「地域食堂 松波のちゃぶ台」を月2回、第1・第3金曜日の午後4時から開催している。最初は30食くらいを予定していたが、今では60食くらい提供している。中央区地域活性化支援事業補助金も活用。

すべての活動をできる事をできる人ができる時に無理なくやろうということで実施。

(松ヶ丘地区部会：伊藤委員)

毎月1回、松ヶ丘中学校地区地域運営委員会で円卓会議を開催し、各団体から活動報告がある。年3回、4つの部会から2つの部会の活動をピックアップした広報誌を発行し、全戸配布している。スタッフが75名くらいいるが、次の世代のスタッフに引き継げるよう、あまりやりすぎないようにしている。あんしんケアセンターや淑徳大学の協力を得ながら、これからも実施していきたい。

(松ヶ丘地区部会：綾野委員) 【補足】

高齢者に対する取組みとしては、毎週のようにいろいろなことをやっており、ゆうあいひろば、いきいき散歩クラブ、シニアリーダー体操などがある。

(川戸地区部会：社協区事務所 中川)

地域内の関係団体と連携しながら様々な事業を行っている。各種イベントや見守り活動、高齢者等のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」活動を実施している。見守り活動は利用者の自宅の外部の確認など、長期的な目配りや声かけを行っており、9月と3月に見守り報告会を実施。いきいきサロン・子育てサロンは予定どおり実施。スポーツ振興会がラジオ体操や散歩を実施するなど、つどいの場・健康づくりの場を設けた。地域の中で敬老会や福祉バザー、盆踊り大会を実施することにより世代間交流ができた。障害者グループホーム「りべるたす」と買い物支援などで協力をいただき、地域の方と交流

を図ることができた。

令和6年度も今年度同様に実施する予定だが、スタッフの高齢化などによるマンパワー不足という課題を感じている。スタッフが無理のないような事業を実施していきたい。

(星久喜地区部会：進藤委員)

なるべく高齢者が外に出るように安全対策をしながら、脳トレサロンやいきいきサロンを実施。いきいきサロンは青葉の森公園や都市緑化植物園などの施設を活用しながら実施。脳トレサロンは高齢者が歩いて行ける公民館で実施。また、公民館ではボッチャを、一部の町内自治会では健康マーじゃんを実施。健康マーじゃんは男性が外に出るきっかけに。世代間交流として、大型の観光バスを借りて、君津・金谷港に日帰り旅行を実施。町内自治会の盆踊りが3か所であったが、星久喜地区でも祭りを開催したく、公民館祭りに合わせて実施。来年度は星久喜中学校で記念イベントを開催する予定。

(武井委員長)

各地区部会の委員から報告をいただきましたが、話したいことも多く、良いことかと思えます。今年度はかなり活動も本来のところに戻ってきたような感じがします。

何かご質問やご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。

(各委員)

意見等なし。

(武井委員長)

特にご意見等がなければ、議題(1)の報告は以上となります。

<議題(2)福祉まるごとサポートセンターについて>

福祉まるごとサポートセンターの森池主査から、資料2を使用しながら、福祉まるごとサポートセンターセンターの説明があった。

(武井委員長)

何かご質問やご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。

(綾野委員)

9ページの8050世帯の事例について、架空のケースという話があったが、実際あった場合にどのように対応することを考えているのか、また、10ページのヤングケアラーについて、いくつかの市町村で家事代行をしてくれるというところが出てきたが、千葉市ではそのようなことを考えているのか。

(福祉まるごとサポートセンター)

8050世帯については、実際に相談事例があるが、認知症までは至っていない親から相談されることが多く、区高齢障害支援課と協力しながら対応している。現在ひきこもりの方で、医療とつながり、親が代わりに精神科を受診しているケースがいるが、本人を連れていくことができれば、入院して集中的な治療を受けられるのではと思っている。一つ一つその世帯の問題の内容によって、ここに書いてある相談機関や行政と連携しながら対応していきます。

ヤングケアラーについては、こども未来局が担当している。こころの健康センターの中にLINK(子ども・若者総合相談センター)という相談機関があり、そこで相談対応をしている。配食サービスや金銭給付をしている自治体もあり、千葉市でも対応を考えてい

るところですが、現時点ではお伝えすることができません。

(石原委員)

アウトリーチ等を通じた継続的支援とあるが、アウトリーチはどういう意味でしょうか。

(福祉まるごとサポートセンター)

アウトリーチは外に出向くというような意味があるが、ここでいうアウトリーチは支援に対して拒否的な方、回りの方から見るとごみ屋敷で何か困っているのではという方、民生委員が訪問しても困っていないという方に対して、支援を届けに行くという意味がある。

(武井委員長)

福祉まるごとサポートセンターは評判が良く、令和6年度からアウトリーチ支援事業も始めるということになると人手がかかると思うが、8ページの人数はそれも加味した人数になっているのか。

(福祉まるごとサポートセンター)

令和6年度から社協の職員が1人増える予定だが、ニーズがどれくらいあるかがまだ分からないので、やりながら必要な人数を積算したいと思っている。

(武井委員長)

他にご質問等がなければ、議題(2)の説明は以上となります。

<その他について>

【事務局】

(1) 推進協だより第27号について

中央区高齢障害支援課矢野主査から、資料3についての説明があった。

意見等はなく、推進協だより第27号の内容について、了承いただいた。

(2) 令和6年度のスケジュール(案)について

中央区高齢障害支援課矢野主査から、資料4についての説明があった。

意見等はなく、令和6年度のスケジュールについて、了承いただいた。

なお、次回の令和6年度第1回推進協の候補日について、口頭で説明があり、現時点で都合の悪い委員が少ない7月5日(金曜日)午前10時から、本日より同じボランティア活動室で開催することに決定した。

【委員】

(進藤委員)

町内自治会の未加入の問題とPTAの未加入の問題がある。避難所運営委員会という各町内自治会からお金を集めて、食料などの備蓄品の充実を図っているが、町内自治会の加入者と未加入者でどういう対応をしてよいのか。ごみステーションの清掃の問題や街灯代など、町内自治会に入っているのと入っていないので問題が出てくる。

PTAが自由化になって、PTAに入る人が減ってきており、PTA自体が解散するところもある。市のPTA連絡協議会も日本PTA全国協議会の加入をやめる話も聞いている。地域の人材もほとんどPTAからあがってきている。

町内に移住してきた方やPTAにあがるときにその情報を資料で配ってくれることはできないでしょうか。

(地域づくり支援課 市川課長補佐)

町内自治会の加入率が下がっていることは大きな課題として認識している。町内自治会での活動がうまく伝わっていないところもあるので、わかりやすく周知することを進めたいと思っている。

(綾野委員)

松ヶ丘では連協で議論をしており、例えば会費を300円もらっているところがあった場合、必要最小限のもの（例えば、ごみステーションや街灯など）の条件を出して、準会員として多少でも会費を支払ってもらうことを検討中。

<閉会>

事務局より議事要旨を千葉市ホームページに公開する旨説明し、15時54分、中央区支え合いのまち推進協議会を閉会した。

以上